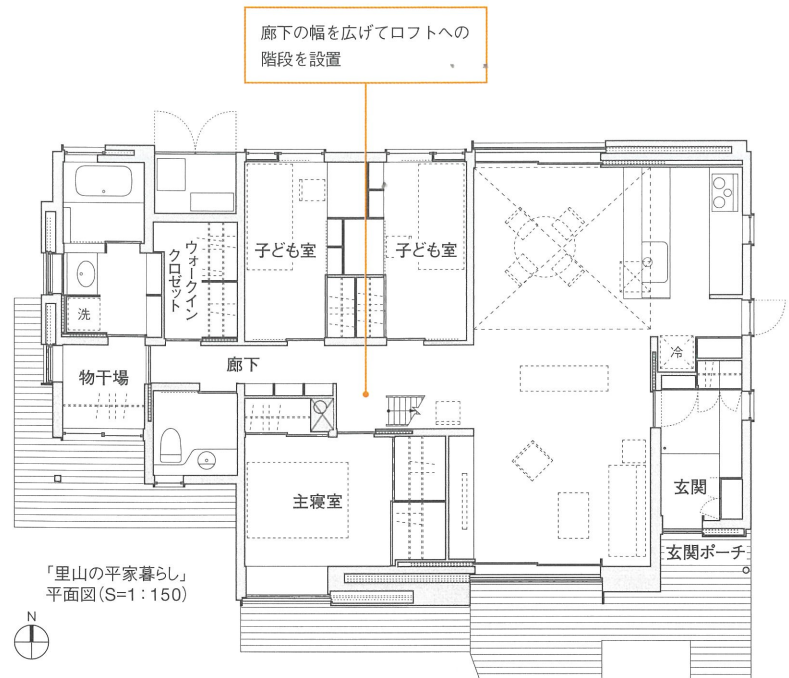


より立体的に楽しく！

ワンフロアで生活を完結させつつ、おまけとしてロフトがあるのも楽しいもの。ロフトに上がるには、大げさな階段よりも梯子で十分。隠し部屋に上がるようなワクワク感が備わると、階段よりスペースが減らせるメリットもあります。そのとき、荷物をもった状態でも上り下りが怖くない踏面や

角度にしておく、ロフトの利用価値が高まります。具体的には畳1枚分ほどのスペースを使うとよいでしょう（写真）。

空間に個性をもたせる上で、天井のかたちや素材を工夫するのも一手。「岩倉の家」では板張りの曲面にして膨らみをもたせました。反対に床に変化をつけてもよいで



「里山の平家暮らし」平面図 (S=1:150)



岩倉の家

設計：伊礼智設計室
(伊礼智+多田彩美)
施工：丹羽工務店

所在地：愛知県岩倉市
敷地面積：1112.63㎡(336.57坪)
建築面積：126.08㎡(38.14坪)
延床面積：132.20㎡(40.00坪)
竣工年月：2022年12月

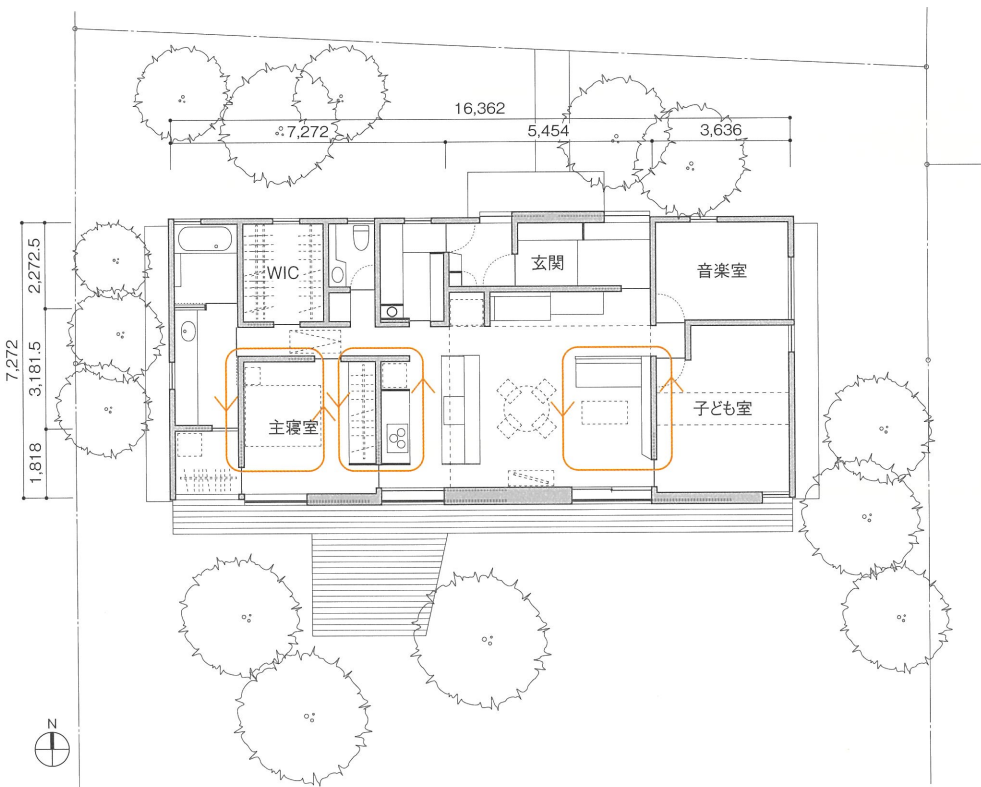
少しの
奥行きが
空間を
魅力的に



「平屋で掃出し窓が多くなると、防犯面に不安を感じる人もいますので、窓の外側にガラリを設けるのがおすすめです。ガラリを閉めれば外から室内が見えず、室内からは庭が見えます。プライバシーを守れて、防犯や台風への備えとしても安心。日射遮蔽の効果もある程度期待できるし、複数のメリットが期待できます」(伊礼)



左／曲面天井はボリュームのある空間が柔かくなり、平屋との相性がよい。この家では、曲面天井によって、さりげなく廊下をリビングに取り込むことに成功している
右／大きな窓を開けたときには、天井との取合いを上手くまとめることもポイント。フラット天井の場合は窓の上端を天井いっぱいにつけるときれいだが、勾配天井のときには桀上に余白を残して納めると窓上に奥行きが生まれ、空間の質がぐっと高まる（撮影：伊礼智）



「倉の家」平面図 (S=1:200)

しょう。単調になりがちな平屋に変化をつけるうえで段差が効果的なのは言わずもがな。ただし、バリアフリーを求められる場合は、フラットな床の一部をカーペットにするなど、床材を切り替えるだけでもよいでしょう。空間にバラエティが加わります。

建築家・宮脇檀さんが「歩き回る家はいい家だ」と言ったことに共感するのですが、特に子どもが楽しそうに走り回る家はいいですね。床が平面的に広がる平屋では、積極的に回遊動線を取り入れるとよいでしょう。便利だけではなく、移動する楽しさをもたらしにくれますし、あつちからもこつちからも行けるという選択の幅がゆとりにつながるからです。

LDKから奥へと続く廊下の一角に余白をつくり、ロフトへ上がる小さな階段を設けた。視線が抜け、長い廊下の閉塞感を消す

里山の平屋暮らし

設計：伊礼智設計室
(伊礼智+福井典子)
施工：柴木材店
撮影：小川重雄

所在地：茨城県つくば市
敷地面積：320.99㎡(97.12坪)
建築面積：102.26㎡(33.11坪)
延床面積：120.43㎡(36.44坪)
1階：102.26㎡(33.11坪)
2階：18.17㎡(5.50坪)
竣工年月：2019年6月

